

第49回日本小児皮膚科学会 学術大会を開催して

(2025年7月19・20日)

ライトキューブ宇都宮

吉原 重美

(獨協医科大学名誉教授／同大学小児科学特任教授／獨協医科大学病院アレルギーセンター長)

第49回日本小児皮膚科学会学術大会を、2025年7月19日と20日の2日間を会期として「子どもの皮膚疾患診療Up Date」をテーマに掲げ、ライトキューブ宇都宮で開催させていただきました。現地開催のみとしましたが、参加者は550名以上と多くの先生方にご来場いただき、たいへん嬉しく思います。

大会テーマの副題は、私の地元である日光の世界遺産、日光東照宮の三猿から着想を得て「Find pleasure in researching, listening and discussing」としました。最新の知識を見聞きし議論をすることで、さらなる小児皮膚疾患診療の発展につなげられる大会プログラムを、副会頭である井川 健

先生(獨協医科大学皮膚科学主任教授)と考えました。

会長特別企画としては、女優の杉本 彩さんを特別ゲストにお迎えして、「食と腸内細菌と美肌」というタイトルで、プロバイオティクスをテーマとして、腸内の善玉菌を増やすために、日常生活で工夫されている食事や運動について対談しました。この日は、偶然にも杉本さんの誕生日であると知り、対談後に花束とケーキでお祝いしました(写真1)。

招請講演は、台湾のJiu-Yao Wang先生には、アトピー性皮膚炎とマイクロバイオーームを中心に「Human Microbiome and Allergy Disorders」、モン

ゴルのSonomjamts Munkhbayarlakh先生には、アジアの小児アトピー性皮膚炎の現状について「Current Status and Challenges of Pediatric Atopic Dermatitis in Asia」のタイトルでご講演いただきました。このほかにも、小児皮膚疾患診療に関する教育講演1～8、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、アレルギーマーチをテーマとしたシンポジウム1～3にて、小児科医と小児皮膚科医で十分な討論ができたことに感謝申し上げます。また、Joint Symposiumとして、台湾、モンゴル、日本の若手医師を中心に「Allergic Diseases in Asia」のテーマで、各々の先生にトピックスについてお話しいただきました。ランチョンセミナー1～6、モーニングセミナー



写真1 会長特別企画「食と腸内細菌と美肌」の対談
杉本 彩さんへ感謝状を贈呈し、誕生日もお祝いしました。

1・2, イブニングセミナー1・2, スポンサーシンポジウム1・2の合計12のセッションや一般演題59題では、会員の皆様のおかげで、それぞれ活発な討論ができました。

懇親会は約200名の先生方にご参加いただき、会頭、副会頭、本学会会長である佐伯秀久先生(日本医科大学皮膚科学教授)の挨拶のあと、宇都宮での学会の成功と本学会の今後の発展のために鏡開きをしました(写真2)。その後、地元の「日光和楽踊り」に参加者全員で踊り親睦を深めました。また、会場に設けた屋台では、宇都宮名物として有名な餃子やカクテル、話題の佐野ラーメンも人気でした。

最後になりますが、本学会開催に際し医局員をはじめ本学術大会に関わる当大学の先生方ならびにプログラム委員など、多くの方々からのご支援により本学会を無事成功裏に終了す

ることができました(写真3)。心より厚く御礼申し上げます。



写真2 懇親会での鏡開き

左から大矢幸弘先生、佐伯秀久先生、鶴田大輔先生、筆者、Jiu-Yao Wang 先生、Sonomjamts Munkhbayarlakh 先生、井川 健先生



写真3 学会終了後にスタッフおよび関係者で記念撮影